



2022年1月 第20巻 第1号

かく語りき—聖人の言葉

「靈的修行によって過去のカルマとの結びつきは断ち切られます。しかし神を悟るには狂おしいほどの神への愛がなければ到達できません。あなたはジャパと靈的修行の意味を知っていますか？ それらが感覚器官の力を抑えるのです」

…ホーリ・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィー

「一方では行動の諸器官を抑えながら、他方では心を感じの対象に向けている者は、まことに愚かな偽善者と呼ばれよう」

…シュリー・クリシュナ

今月の目次

- ・かく語りき—聖人の言葉
 - ・お知らせ
 - ・2022年2月、3月の生誕日
 - ・2022年1月逗子例会
- スワームー・メーダサーナンダ

- ・2021年12月クリスマス・イブ
- レオナルド・アルヴァレス
- ・忘れられない物語
- ・今月の思想

今月の予定

～お知らせ～

コロナウイルスの影響のため、引き続きライブストリーミングやズームなどの配信を中心に、皆様にお届けいたします。ズームに関するお問い合わせ、お申込みは下記にメールをお送りください。

zoom.nvk@gmail.com

2022年2月、3月の生誕日

スワームー・ブラフマーナンダ
2月2日（水）

スワームー・トリグナティターナンダ
2月4日（金）

スワームー・アドブターナンダ
2月16日（水）

シュリー・ラーマクリシュナ
3月4日（金）

シュリー・ガウラーンガ

(チャイタンニヤ) 3月18日(金)
スワミー・ヨーガナンダ
3月21日(月)

・日本ヴェーダーンタ協会の行事予定
はホームページをご確認ください。

<https://www.vedantajp.com/>

2022年1月返子例会

ホーリ・マザー・シュリー・サーラ
ダー・デーヴィー第169回生誕祝賀会
午後の講義

「ホーリ・マザー・シュリー・サーラ
ダー・デーヴィー」
スワミー・メーダサーナンダ

シュリー・ラーマクリシュナの霊性の
伴侶であるホーリ・マザー・シュリ
ー・サーラダー・デーヴィーについて
話をするのは少し難しいと言わざるを
得ません。シュリー・ラーマクリシュ
ナとスワミー・ヴィヴェーカーナン
ダについて話す方が簡単です。なぜな
ら、お二人は誰とも比べ物にならない
ほどの存在で、その生涯は多くの興味
深く重要な出来事に彩られているから
です。一方、ホーリ・マザーは、とて
もシンプルで奥ゆかしい方でした。外
から見ると、マザーの生涯は、特別で
も華々しくもカリスマ的でもドラマチ
ックでもありません。だからお話をす
るのが難しいのです。

ホーリ・マザーはインドの伝統に従
って、いろいろな人の集まる場所で

は顔を完全にヴェールで覆っていまし
た。誰もマザーの眼を見たことがなか
ったので、ものごとに対するマザーの
反応を読むことはできませんでした。
マザーの最大のヴェールは、シンプル
かつ謙虚な性格でした。その性格でほ
とんどの人びとから本当のマザーを覆
い隠していたのです。目立たない見か
けの背後には並外れた何か、見た目は
平凡でも素晴らしく卓越した何かがあ
りました。

実際、弟子たちにホーリ・マザーの
非凡さを最初に気づかせたのは、シュ
リー・ラーマクリシュナご自身でした。
それがなかったら、シュリー・ラーマ
クリシュナの出家直弟子でさえ、ホー
リ・マザーの偉大さも比類なき神聖な
人格も知らなかったでしょう。

礼拝を受ける者と礼拝をする者、ど
ちらがより偉大でしょう？

皆さんにお聞きします。礼拝を受け
る者と礼拝をする者、どちらがより偉
大ですか？ もちろん一般的には、礼
拝を受ける者の方が偉大だと答えます
ね。この見方からいうと、シュリー・
ラーマクリシュナという神人は何百万
人もの魂によって礼拝を受けているの
で、その偉大さはよく理解できます。
しかし、シュリー・サーラダー・デー
ヴィーはシュリー・ラーマクリシュナ
から礼拝を受けました。ということは、

お二人は一つの靈的存在の二つの側面ですが、ある意味、ホーリ・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィーの方がシュリー・ラーマクリシュナよりもさらに偉大であったと結論付けざるを得ません。

また、マザーはシュリー・ラーマクリシュナからの礼拝を、何ら反対することなく、気まずさも恥かしがることもなく、受け入れました。普段のホーリ・マザーは非常に恥らい深い方でしたし、シュリー・ラーマクリシュナに対する深い敬意を考えると、あっさりと礼拝を受けるなど考えられないことです。

礼拝のためのすべての品々は準備され、ドッキネッションのシュリー・ラーマクリシュナの部屋には礼拝を受ける者の座がしつらえられ、花やお供え物が供えられました。これらすべてが整うと、サーラダー・デーヴィーはシュリー・ラーマクリシュナの部屋に呼ばれ、席に着くように言われました。そして、シュリー・ラーマクリシュナが儀式的礼拝を始めた瞬間、ホーリ・マザーはサマーディに入りました。

このサマーディの意味は？ マザーは、ご自分が聖母の化身であり根本エネルギーである、という自らの本性にすぐさま気づいたのです。そうです、マザーは自分自身を完全に聖母と一体

化してシュリー・ラーマクリシュナの礼拝を受けました。もしマザーが自分の本性にすぐに気づかなかっただら、シュリー・ラーマクリシュナの礼拝を受け入れることはできなかったでしょう。ホーリ・マザーは宇宙の聖母として、聖母の子供であるシュリー・ラーマクリシュナからの礼拝受け入れました。

そのプージャー（礼拝）の最後にはシュリー・ラーマクリシュナもサマーディに入りました。つまり、礼拝する者と受ける者の両者がサマーディに入り、超意識のレベルで一体となられたのです。このことは、同じブラフマンが神人ラーマクリシュナとシュリー・サーラダー・デーヴィーとしてあらわれたことを意味します。その後、両者が肉体レベルに戻ると、ホーリ・マザーはシュリー・ラーマクリシュナに心でプラナムを捧げて部屋に戻りました。[礼拝を受けた人は、礼拝をやり返すことができないので]

この出来事の後、他者がシュリー・ラーマクリシュナを礼拝しているときに、実は私はシュリー・ラーマクリシュナから礼拝を受けたことがあるんですよ、とホーリ・マザーが話したことがあるのでしょうか？ マザーはそのような自慢を楽しんだことなどあるのでしょうか？ 絶対にありません。そして、シュリー・ラーマクリシュナの礼拝を受け入れ、没入できるほどの、マザー

の霊性の高さを思うにつけ、人は驚きの念に打たれます。私がこの例をシェアしたのは理由があります。それは、私たちがホーリ・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィーをシュリー・ラーマクリシュナの妻として称賛するだけでなく、ホーリ・マザーご自身が本当に、聖母の化身として私たちの最高の尊敬を受けるに値するお方である、ということをお伝えしたかったからです。

私とその違いを指摘したのは、当時のシュリー・ラーマクリシュナの在家弟子のほとんどが、ホーリ・マザーをグルであるシュリー・ラーマクリシュナの妻としてしか見ておらず、マザーを師の妻として尊敬していたからです。

ホーリ・マザーはどのような母であるか？

ある時、ギリシュ・チャンドラ・ゴーシュという大変率直で大胆な師の弟子がホーリ・マザーに尋ねました。「私はあなたがどのような母なのか知りたいです。あなたは私たちのグルの奥さんだからお母さんなのですか？ それとも私たちより年配だから「お母さん」なのですか？ あなたは私たちを生んだわけでもないのに、どうして私たち皆、あなたをお母さんと呼ぶなければならないのでしょうか？」 ホーリ・マザーのシンプルで信念に満ちた答えは、「私はグルの妻だから『お母さん』

なのではありません。私は仮の母でもないし、なんとなくお母さんなのでもありません。私はあなたの『本当のお母さん』です。私はあなたの『永遠の母』です」というものでした。

私たちの周りのすべての母親は、聖母の化身です。マザー・ドゥルガーのチャンディ聖典には「すべての母親の姿でご自身をあらわしている聖母に、[幾重にも] 敬礼します」と書かれています。つまり、聖母はすべての母親と、母性として、ご自身をあらわしているのです。その点から、ホーリ・マザーは私たち皆のお母さんです。今生だけでなく、来世もそのまた来世も、ずっと続く未来まで私たちのお母さんなのです。なぜなら、マザーこそが聖母の化身だからです。

シュリー・ラーマクリシュナは、神の化身として、世界の教師として、聖なる役割を演じられましたが、それはどなたの力でできたのでしょうか？ それは「シャクティ」の権化であるホーリ・マザーの力によってです。アヴァターラ・リーラ（神の化身の遊び）は、常に聖母の力によって可能となるのですから。ブラフマンがプラクリティと一つにならなければ、ブラフマンは神の化身として活動できない、とシュリー・ラーマクリシュナは言いました。つまり、シュリー・ラーマクリシュナはサーラダー・デーヴィーとして

化身した聖母の力によって、ブラフマンの具現化した存在になったのです。

シャンカラ、聖母を避難所とする

一つの物語があります。アディ・シャンカラチャーリヤ（シャンカラ）はシャクティを信仰せず、ブラフマンだけを信仰していた頃の話です。ある日、シャンカラはベナレスで病気にかかり、大変衰弱しました。シャンカラはガンジス川に触れたいと思ったのですが、町は小高い場所にあり、川のガート（炊事やヒンドゥ教の沐浴、葬礼をするところ）の階段はとても急だったので、行くことを諦めました。その代わりに誰かにガンジス川の水を汲んできて欲しいと願いました。一人の老女がガンジス川に沐浴に行こうとしているのをみて、シャンカラは「お母さん、沐浴がお済みになったら、すみませんが私にガンジス川の水を汲んでいただけませんか？」とお願いしました。

女性はその願いに驚き、身振り手振りで川を指しながら「なんで私が？ 自分で行なさい！」と伝えました。シャンカラは、自分はとても弱っているので川に行って戻ってくる力がないのです、と説明しました。

「なんだって？ あなたは力を信じていない！ シャクティの力を信じて

いないのに、どうして力がないと文句をいうのかね？」 本当は老女は、「ブラフマン」への信仰だけではことをなせない、ということをシャンカラに教える聖母だったのです。聖母、シャクティを信じなければ、霊的な知識と理解は不完全なままです。のちにシャンカラは『バヴァーニ・アシュタカム』という素晴らしいストットラム（賛歌）を作りました。その中の数節は「おお、母なるバヴァーニ（ドゥルガー女神）様、あなただけが私の避難所です」で締めくくられています。

どのように理解が来るか

偉大な魂でさえ、霊的に完全になるためにはシャクティを信じ信仰することが求められます。

ブラフマンだけ、シャクティだけ、を信じてても、悟りは完全なものになりません。ブラフマンとシャクティの両者は二者ではあるが実際には一つの存在である、と信じたとき、その人の霊的悟りは完全なものになります。宇宙が創造されるや否や、母の遊びは始まります。この宇宙は聖母の管轄下にあるのです。そこで聖母は遊びを楽しみます。

シュリー・ラーマクリシュナは若い弟子たちに繰り返し言いました。「よく覚えておおき、カーリー寺院のお母さんと、ナハバト（音楽堂）のお母さん

(サーラダー・デーヴィー) はひとつの同じ存在なのだよ」 シュリー・ラーマクリシュナが肉体を去って少ししてからのことです。スワミー・ヴィッギャーナナンダジーはラーマクリシュナ僧院の副僧長として、また後には僧長として、信者たちにイニシエーションを授けました。ヴィッギャーナナンダジーは誰かにアドバイスを与える時や講義をするときには、シュリー・ラーマクリシュナのことだけを話しました。そんな時、シュリー・ラーマクリシュナがヴィジョンとなってあらわれ、なぜ私のことだけを話すのだい？と問うたのです。「どうして『彼女』(ホーリ・マザー) のことも話さないのだい？ 本当は私ではなく『彼女』が解脱を与えるのだよ！ 『彼女』のことも忘れず話さない。そうしないでどうやって信者たちが解脱できるのかね？」 『彼女』が私たちを束縛しているので、もし『彼女』の恩寵を受ければ、私たちは束縛から解放されます。束縛から解放されたければこのように『彼女』に祈ってください、どうか束縛のかせを真二つに断ち切ってください、束縛から解放してください、と。なぜなら『彼女』ご自身が私たちを縛り、『彼女』ご自身が私たちを解放してくださるお方だからです。

ひとつ重要なことがあります。私自身の人生を振り返ってみると、霊的生活において意識と気づきが高まれば高

まるほど、あることをより理解するようになりました。私たちはシュリー・ラーマクリシュナやホーリ・マザーの写真や像を見て、尊敬をもって礼拝します。それはいいですが、それだけでは私たちの霊的レベルは上がりません。もし私たちの霊的生活をもっと濃厚なものとし、霊的理解を深めたければ、シュリー・ラーマクリシュナとホーリ・マザーの本質を理解する必要があります。ではどうすればお二人の本質を理解することができるでしょう？

ご存じのように、お二方の写真には何も特別なところはありません。しかし、お二方について学べば学ぶほど、考えれば考えるほど、その生涯や教えについて瞑想すればするほど、その時、写真や像はお二方のあらわれそのものである、ということがもっともっと分かるようになり、その真実味はさらに深みを帯びるようになります。それはとてつもなく広大なのです。一つの良い例が『ラーマクリシュナの福音』です。『福音』は一度読むだけでもいいですが、何度も読めば読むほど、より理解できますね。そして、『ラーマクリシュナの福音』からさらなる光を得れば得るほど、私たちは成長します。私たちはそのことに気づいていないかもしれませんが、霊的生活は間違いなくより豊かになります。そして霊的生活が豊かになればなるほど、『福音』を読むたびに『福音』から得られる光が増え

るのです。このように『福音』を読み、考え、瞑想することで、私たちはシュリー・ラーマクリシュナとホーリ・マザーの人格の本当の素晴らしさをより認められるようになります。

そしてスワミー・シヴァーナダジーは言いました。「シュリー・ラーマクリシュナが生きておられたとき、私たちは多くのことを聞いたが、おっしゃることの深い意味はほとんど理解できませんでした。実際、シュリー・ラーマクリシュナは『今は聞くだけでいいよ。後でお前たちには分かるだろうから』とおっしゃったものです」シュリー・ラーマクリシュナが亡くなって何十年も経ち、若かった信者も年配の僧侶となったころ、多くのタパッサー（苦行）や霊的实践を積んだシヴァーナダジーは言いました。「今やっと、シュリー・ラーマクリシュナがかつて私たちにおっしゃったことの本当の意味が分かるようになりました」シヴァーナダジーの理解よりは狭いかもしれませんが、私たちはもっと、ホーリ・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィーの人格と教えの本当の目的と意味を理解するよう心がけるべきです。それは私たちの霊性の発展に貢献します。たとえヴェーダーンタ哲学を学ばなくても、それは霊性を開発するための一つの道だからです。

私たちはまだ遠い

皆さんご存知のように、シュリー・ラーマクリシュナはドッキネッショナル寺院のカーリー女神の像を礼拝していました。師は、宇宙の創造・維持・破壊の主であるカーリーお母さんにたびたび話しかけました。そのことを聞いた神の形のない側面だけを信じるブラフマー・サーマジのケシャブ・チャンドラ・センは、マザー・カーリーの小さな神像が一体どうやって広大な宇宙を生み出すことができるのでしょうか、と驚きつつ面白がりしました。論理的にそれは不可能ですから。ケシャブがその疑いと混乱を伝えると、シュリー・ラーマクリシュナは次のような例を挙げました。「ケシャブ、ごらんよ。我々が太陽を見上げると、太陽は小さ円にしか見えないけれど、本当にそうなのかね？」太陽に近づけば近づくほど、太陽はもっともっと大きいことが分かります。「今、お前さんはマザー・カーリーからとても遠いところにいるんだよ」「でもね、マザー・カーリーに近づけば（理解すれば）、お前にもそれは小さな神像なんかじゃない、ということが分かるだろうよ。カーリー女神は、本当は無限なんだから」とシュリー・ラーマクリシュナは続けました。そうです、カーリー女神が一番大きいものよりも大きく、一番偉大なものよりも偉大な存在です。

同じように、シュリー・ラーマクリ

シュナとホーリ・マザーのお写真が私
 たちにはどうしてそんなに小さく見え
 るのでしょうか？ それは私たちがお
 二方から離れているからです。それは
 物理的に近いとか遠いとかではなく、
 心と霊的な意味での距離です。しかし、
 私たちが霊性の道においてお二方に近
 づくば近づくほど、つまり、その本性
 について、長く深い祈りと瞑想をし、
 身体、心、霊的に純粹になれば、その
 とき私たちはさらにお二方の人格の広
 大さと深遠さを理解できるでしょう。
 そうなれば、シュリー・ラーマクリシ
 ュナとシュリー・サーラダー・デーヴ
 ィーはブラフマン以外の何者でもない、
 神ご自身、聖母、「彼女」ご自身以外の
 何者でもない、ということが分かるで
 しょう。

[ホーリ・マザー・シュリー・サーラ
 ダー・デーヴィー第 169 回生誕祝賀会
 は、2022 年 1 月 16 日（日）逗子別館に
 て次のようなスケジュールで行われ
 た]

- 06 : 00 マンガラ・アーラティ
 聖句詠唱、賛歌朗誦
- 06 : 30 瞑想
- 07 : 45 朝食
- 11 : 00 プージャー（礼拝）食物
 献、アーラティ、花奉献
- 12 : 30 昼食・プラサード
 (神様に供えられた食物)
 (本館にて)

- 14 : 45 聖句詠唱
 賛歌：スワーミー・ディッヴィヤーナ
 ターナンダジー
 『ホーリ・マザーの福音』音読
 講義「ホーリ・マザー・シュリー・サ
 ーラダー・デーヴィー」
 話者：スワーミー・メーダサーナンダ
 ジー
 通訳：レオナルド・アルヴァレスさん
 賛歌
 瞑想
- 16 : 30 ティータイム（本館にて）
- 18 : 00 アーラティ、ジャパ、輪読
 瞑想
- 20 : 00 夕食







クリスマス・イブ

2021年12月 逗子本館

「シュリー・ラーマクリシュナと主イエスの生涯と教えの共通性」

レオナルド・アルヴァレス

シュリー・ラーマクリシュナと主イエスの生涯の出来事とその教えには多くの共通性があります。今夜はそのいくつかを簡単にお話ししたいと思いません。

外国の統治下での生誕

シュリー・ラーマクリシュナも主イエスも強大な外国の帝国に統治されている国で生まれました。主イエスがイスラエルで生誕された当時、イスラエルはローマ帝国の植民地でしたし、シュリー・ラーマクリシュナも、イギリス統治下のインドで生誕されました。ローマの植民地になる前にもイスラエルは、ギリシャの植民地でした。イスラエルはいずれの統治下にあった時も

宗教弾圧が横行していたので、多くのユダヤ人は自らの宗教的価値観を放棄し、ギリシャ人やローマ人によってもたらされた世俗的な文化を取り入れました。

包囲網下での霊性

ユダヤ人の聖職者階級であるレビ人には、ファリサイ派、サドカイ派、ゼロテ党、律法学者などがいました。彼らのユダヤの宗教法に対する見解は非常に狭く、自国民を圧政しました。彼らは、人々に重い義務を課し、自らは法律を守らないのに自分たちの利益のために口をはさみ、トーラー（ユダヤ人の律法）のほんのちょっとした点について他の宗派と口論したりしていました。長いあいだイスラエルの地に予言者はあられなく、霊性はすっかり干上がっていました。

同じように、シュリー・ラーマクリシュナの生誕当時、多く的人是はヴェーダの教えの信ぴょう性を疑い、非常に多くの人々が無神論者や不可知論者になっていました。「西洋教育」を導入することでインド文化を消滅させる腹の大英帝国が押し付けてきた物質主義的な考え方を完全に受け入れていたのです。ヴィシュヌ派、シヴァ派、ヴェーダーンタ学派、ブラフモニー主義など無数の宗派が存在していましたが、彼らは互いに口論し合い、各々が自分たち

だけが正しく、真の考えであると主張しました。また、知識人はヴェーダの宗教的な考えやヨーガの体験記をおとぎ話に過ぎないと考えていました。インドの人々を暗闇から光に導くために、これらの食い違う見解を説明し、調和させ、インドの真の宗教生活が何たるかの正しい例を示すことができる悟った存在はほとんどあらわれませんでした。

真理の再確立

主イエスとシュリー・ラーマクリシュナの出現により、ユダヤ教とヴェーダの宗教の真理は再確立されました。それだけではありません、それら教えはその国の人々だけでなく、全世界の人々のものになったのです。「私が来たのは廃するためでなく成就させるためである」(マタイ 5:17) 主イエスは、トーラー(ユダヤ人の律法)をもとにした理想的なユダヤ人像の本質を体現しただけでなく、さらには、神の完全なる信者とはどうあるべきかを示しました。また当時、権力を振りかざすユダヤ教聖職者が、エルサレムの主神殿でしか礼拝してはいけない、という理不尽な強制をしていましたが、主イエスはその制約を破り、礼拝は特定の場所に制限されてするものではなく、むしろ、人のハートと精神が礼拝を捧げる永遠の寺院であることを示しました。主イエスは言いました。「あなたがたが、

この山でも、またエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。あなたがたは自分の知らないものを拝んでいるが、わたしたちは知っているかたを礼拝している…しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊と真理をもって父を礼拝する時が来る。今がそのときである。なぜなら父はこのように礼拝をする者を求めておられるからだ」(ヨハネの福音書 4:21-23) またユダヤ人はそれまでは、すべての外国民族を野蛮で穢(けが)れており、救済のチャンスなどないものだと考えていました。しかし、主イエスはサマリア人、ギリシャ人、ローマ人に救いを与えた、つまり、人種や信条に基づいて差別をしなかった、ということが、福音書から分かります。

シュリー・ラーマクリシュナも同じような使命を果たしました。もしかしたらシュリー・ラーマクリシュナの務めのほうがより困難だったかもしれませんが。というのはユダヤ教のトーラー(律法書)は複雑ですが、イスラエルにはインドほど多様な宗教の宗派や哲学は存在しなかったからです。バーラタの地(インド)に神学的制約が存在したことはなかったので、無数の宗派や教義があらわれ、それらは今でも続いています。シュリー・ラーマクリシュナは、バクティ・ヨーガ、ラージャ・ヨーガ、ギャーナ・ヨーガ、カルマ・ヨーガ、さらにはハタ・ヨーガの道と

いうインドの主な宗派の実践を通して究極の真理を経験する、という超人的な仕事を引き受けました。それだけではありません。シュリー・ラーマクリシュナはそれまでの神の化身がしなかったこともしました。例えばイスラム教、キリスト教など、過去全ての神の化身と同じ最高の悟りを経験することで、それらが真実であることを証明しました。このように、ヒンズー教内の各宗派にとどまらず、世界の宗教をご自身で調和させたのです。

シュリー・ラーマクリシュナはカーストの慣習をきっぱりとやめました。自分はブラーミン階級だから偉い、という考えを払拭するために、自らの髪で掃除夫のトイレを掃除することさえしました。シュリー・ラーマクリシュナは、すべての信者はただ一つのクラスに属していると宣言しました。ですので、当時の風習で「不可触民」階級の人々は極端に差別され、「ムレッチャ」と呼ばれた外国人も軽蔑されていましたが、信者たちは皆ともに座り、食べたり飲んだり、祈ることができました。このようにしてシュリー・ラーマクリシュナは、宗教や信条とは無関係に、いかなる人間も自分の霊的生活の姿を形成するのに応用できるひな型を作ったのです。このことは、この時代にふさわしい神の化身（ユガ・アヴァターラ）の教えである証です。というのは、グローバル化した昨今、全世

界は完全につながっており、知識は私たちの手中にあるので、派閥主義や偏狭さは長く存続できないからです。

その他の共通性

主イエスとシュリー・ラーマクリシュナにはほかにも多くの共通性があります：

- ・どちらも貧しくとも敬虔な家族のもとに生まれ、その生誕の時には迫害に遭いました。

- ・非常に若い頃から深い知恵と信仰を明らかにし、聖職者やパンディット（聖典学者）の非常に複雑な神学的問題を解決したので、人々はその早熟な叡智に驚きました。

- ・若い頃に父親を亡くし、その後、非常に厳しいサーダナ（霊性の修行）期間を過ごしました。

主イエスの13歳から30歳までの生涯については何も知られていませんが、伝説によると、彼はたった一人で非常に厳しい霊的苦行を実践しました。ローマ人が最初にエルサレム神殿を破壊する数十年前に逃れたユダヤ人の居留地で説教をする目的と、インドのサドゥから学ぶために、インドのカシミールにたどり着いたという伝説が残っています。

シュリー・ラーマクリシュナも12年

間、信じられないほど厳しい霊的実践の期間を、時には一人で、またさまざま師の指導の下で過ごしました。お二人とも訓練の期間を終えると、世界の師としてあらわれました。

- ・お二人は罪人とも聖者たちとも交流がありました。特に墮落した人、虐げられた人、貧しい人、謙虚な人、敬虔な人、そんな人々を救済しようとしました。

主イエスは、娼婦、徴税者、罪人などを救い、シュリー・ラーマクリシュナはギリシュ・ゴシュのような大罪人やコルカタのスター劇場の墮落した女優を祝福しました。

- ・どちらも高尚な真理を教えるために、日常によくある例やたとえ話を用いました。

- ・内面外面の最高の放棄を説きました。家住者も神に到達できるという道を示した、という点でシュリー・ラーマクリシュナのほうが情け深いかもしれません。主イエスについては、最高の放棄のメッセージだけを見ます。ただ、後になって、家住者も各自のできる範囲でその教えに従って生きるべきであるという解釈をした聖者や教会がそのように教えました。

- ・また、どちらも他者の罪を引き受け、そのために主イエスは磔（はりつ

け）で、シュリー・ラーマクリシュナは耐え難いほどの癌でなくなりました。

- ・お二人とも生涯独身でした。シュリー・ラーマクリシュナは結婚後も独身者としてふるまうことで、一線を引いたと言えるでしょう。

- ・若い頃にはどちらも大変強靱な肉体の持ち主だったといわれています。例えば、主イエスが神殿の前で両替商や商人を追放したとき、彼の姿は凛々しく恐ろしい形相だったので、皆は主イエスの激怒を見て逃げだしたほどです。もしも主イエスが弱ければ、彼らは笑い飛ばしていたでしょう。同じように、シュリー・ラーマクリシュナも非常に頑丈でした。強い体格だったから非常に強烈なさまざまな苦行の衝撃にも耐えることができたのです。

- ・お二人は、自らの死とその状況を予言しました。主イエスはエルサレムのユダヤ人当局によって死刑に処せられるであろう、と言い、シュリー・ラーマクリシュナは、私の写真が家庭で礼拝され、非常に多くの人々が私がアヴァターラ（神の化身）であると分かって、私のもとを訪れるようになる時、私は人間の身体を捨てるだろう、と言いました。

- ・どちらも子供のような純粹さと混じりけのない信仰で神に祈りました。

主イエスは神を「アッパ」を呼びましたが、それはアラム語で子供が父を呼ぶときの「パパ」と同じ意味です。シュリー・ラーマクリシュナはインドの子供が母を呼ぶのと同じように、マザー・カーリーを「マー、マー」と呼びました。主イエスは「私と父とはひとつである」(ヨハネ 10:30) と言い、シュリー・ラーマクリシュナは「私とマザー・カーリーはひとつです」と言いました。主イエスは「求めなさい、そうすれば、与えられる。探しなさい、そうすれば、見つかる。門をたたきなさい、そうすれば、開かれる」(マタイによる福音書 7:7-8) と言い、シュリー・ラーマクリシュナはよく「神に対するあこがれをもって祈る者は、それが誰であっても、神はその祈りに答えてくださる」と言いました。

・お二人とも、教えを受け入れ自分を純粹に保つために、自己の完全な一新を求めました。主イエスは言いました。「そして、だれも、新しいぶどう酒を古い皮袋に入れはしない。もしそうすれば、ぶどう酒は皮袋をはり裂き、そして、ぶどう酒も皮袋もむだになってしまう。だから、新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れるべきである」(マルコによる福音書 2:22)。新しい革袋は、求道者の純粹な心とハートを意味し、新しいワインは、主イエスの霊的な教えを意味します。シュリー・ラーマクリシュナも次のように言いました。「凝

乳が入っていた壺にヨーグルトを入れると酸っぱくなる。だからヨーグルトを新鮮に保つには新しい壺に入れなくてはならない」 その意味は、まだ「欲望と金」に触れていない若者のような、清らかな信者の心は、ヨーグルト（霊性の教え）を新鮮に保つことができる新しい壺のようなものである、です。さもなくば酸っぱくなる、つまり、霊的な教えはきちんと実を結ばない、という意味です。

ありがとうございました。メリークリスマス。

[日本ヴェーダーンタ協会では 12 月 24 日の午後 7 時から、クリスマス・イブが行われた]

19:00

スワミー・ディッヴィヤーナターナンダジーによる供物奉獻とアーラティ
キャロル:

『ジョイ トゥ ザ ワールド』
シャンティ・泉田さん、スティーブン・モーガンさん、ロニー・ハーシュさん
聖書朗誦

英語: スワミー・メーダサーナンダジー、日本語: 石塚俊久さん

キャロル『まきびと羊を』

新刊リリース

『ラーマクリシュナの回想録 1』

翻訳者: 荒木光二郎さん

講話『イエス・キリストの教え』

レオナルド・アルヴァレスさん
キャロル『神の御子は今宵しも』
黙想

キャロル：『きよしこの夜』

20：45

夕食・プラサード

(神様に供えられた食物)



忘れられない物語

「スワミー・ブラフマーナンダジー
との買い物」

S. ヴェンカテスワラン

スワミー・ブラフマーナンダジーは、普段はまじめなで霊的に偉大でありながら、子供のようなシンプルさをお持ちだった。スワミーがマドラス

のラーマクリシュナ僧院に滞在中、午後にはしばしば料理人を呼びにやり、彼とふざけて冗談を交わされた。そしてユーモラスな内容とおぼしき手紙を書きとらせて、ベルルの僧院の料理人に送られた一料理人の名前を歌いながら。スワミーはどちらの料理人のこともとても愛しておられたし、料理人たちはスワミーのユーモアを喜んだ。手紙が届くと彼らも返信したので、定期的な文通が始まった。手紙はベンガル語で書かれていたので、私には内容が分からなかったが、多くの霊的で示唆に富む言葉がユーモアを交えて語られていたようだ。

スワミーが午後、僧院のホールを行ったり来たりなさるのにも、同行した。スワミーはさまざまな話題について話された。ときどき、突然かなり深刻な様子で目を閉じられた。そんな時私は畏怖と尊敬の念でいっぱいになり、スワミーが再び話し出すまで、一言も発しなかった。朝と夕方にスワミーは住まいと僧院の間を往復されたので、私も同行した。そのような時には、小銭を少しだけお持ちだった。ある朝、私たちはマイラポールの野菜市場に行った。スワミーはある八百屋に大かご一杯のナスの値段を尋ねたが、ただの好奇心で聞かれたと思った八百屋は答えなかった。スワミーは隣の八百屋で同じことを聞いた。今度はまとめて20～30ルピーだという返事

があった。そこでブラフマーナンダジ
ーはその八百屋に1パイ（1アナの12
分の1）を渡して、ナスを一つ受け取っ
た。そしてハウレンソウを売る八百屋
にも同じことをなされた。

市場を出るとスワミーは私に、こ
のナスとハウレンソウを料理人に渡し
て今日中に調理してスワミーに出す
ように伝えておくれ、とおっしゃった。
私が別のスワミー方にこのことを話
すと、ただ笑うだけだった。しかし、
後で分かったことだが、スワミーが
ナスとハウレンソウを買った数分後に、
この二軒の八百屋の野菜は売り切れた
そうだ。次にスワミーがその市場を
訪れると、八百屋たちは皆スワミー
に野菜を買ってください、と言ったが、
スワミーは無視なされた。

また、僧院に滞在中、スワミーは
多くの見習い僧を出家させたり、イ
ニシエーションを与えられた。私自信に
スワミーからイニシエーションを受
けるよう促す人もいた。当時、私はイ
ニシエーションの意義を本当の意味で
理解しておらず、どのようにスワミ
ーに話を持ち掛ければいいのか分から
なかった。それでもある日、私はスワ
ミーに、イニシエーションを授けて
ください、と伝えた。「君はイニシエ
ーションを受けたいのかい？」 「どう
してだね？」とスワミーは尋ねられ
た。それでも私が食い下がると、スワ

ミーは翌日の正午に沐浴をすまして
から来るようにとおっしゃった。

私がイニシエーションを受けるた
めにスワミーのもとに行くと、スワ
ミーは聖堂へ行き、シュリー・ラー
マクリシュナのお写真の前で、瞑想を
始められた。それから私にイニシエ
ーションを授けてくださった。その直後、
私は想像しうる最高のものを手にした
ような、最高の幸せを感じた。スワ
ミーがマドラスからお発ちになる前、
スワミーは私にジャパに使うルドラ
クシャの数珠を下された。

「スワミー・ブラフマーナンダの思
い出」 S. ヴェンカテスワラン著 よ
り抜粋
<vedanta.org>

今月の思想

「働くことと神を礼拝すること」は、
靈的進歩にもっとも確実な方法である。
…スワミー・ブラフマーナンダ

発行：日本ヴェーダーンタ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: info@vedanta.jp